

但馬地方で採集された淡水産 フラナリア

中野 真^{*}

筆者は、向原行雄・山崎喜彦両君と共に、1973年から1976年にかけて豊岡高校生物部の活動として、豊岡市周辺の淡水産フラナリアの分布調査を行ってきた。当時の調査は、個体の採集時間や記録の不十分なところも多かったと思うが、薩女子大学教授川勝正治博士に個体の同定やその他いろいろな助言をいただき、なんとかまとめることができた(中野ら、1976)。その後、我々の中心的調査場所であった妙楽寺周辺は宅地造成が進んできた。そのことでフラナリアにとっての生息環境がどうか変わったかはわからないが、この我々の調査結果を埋もれた記録としないために、ここにその内容を記す。

◦調査方法

主に自然採集によったが、妙楽寺付近の古井戸では、trap 採集を行なった。(詳細についてはIratume 2号の拙文、「フラナリア入門」(中野、1978)参照)

◦調査結果

・但馬地方の淡水産フラナリアの分布

但馬地方における淡水産フラナリアの調査はおくれていて、過去の記録ではおそらく玄武洞(川勝・新村、1975、)と円山川・矢田川水系(西村、1957、1959a, b、)、氷ノ山(川勝・大河原、1968)など数か所の調査が行なわれているにすぎない。採集地点は図1、表1に示したが、これらの採集は、豊岡生物部の採集旅行の合い間に行なったものであり、調査域はごく限られている。円山川水系の記録がもう少しあれば、一つの水系に注目した考察もできたであろうと後悔している。

・妙楽寺地域の淡水産フラナリアの分布

豊岡市妙楽寺地域は、市の南西部に位置する円山川の小支流である蓼川沿いの低地である。標高は2~3mで蓼川沿いには浅井戸が有り、西側は低い丘陵地(20~70m)となっている。ここは豊岡高校から近いこともあって我々の絶好の調査場所となった。

* 現住所 〒359 埼玉県所沢市

但馬地方の淡水産プラナリア

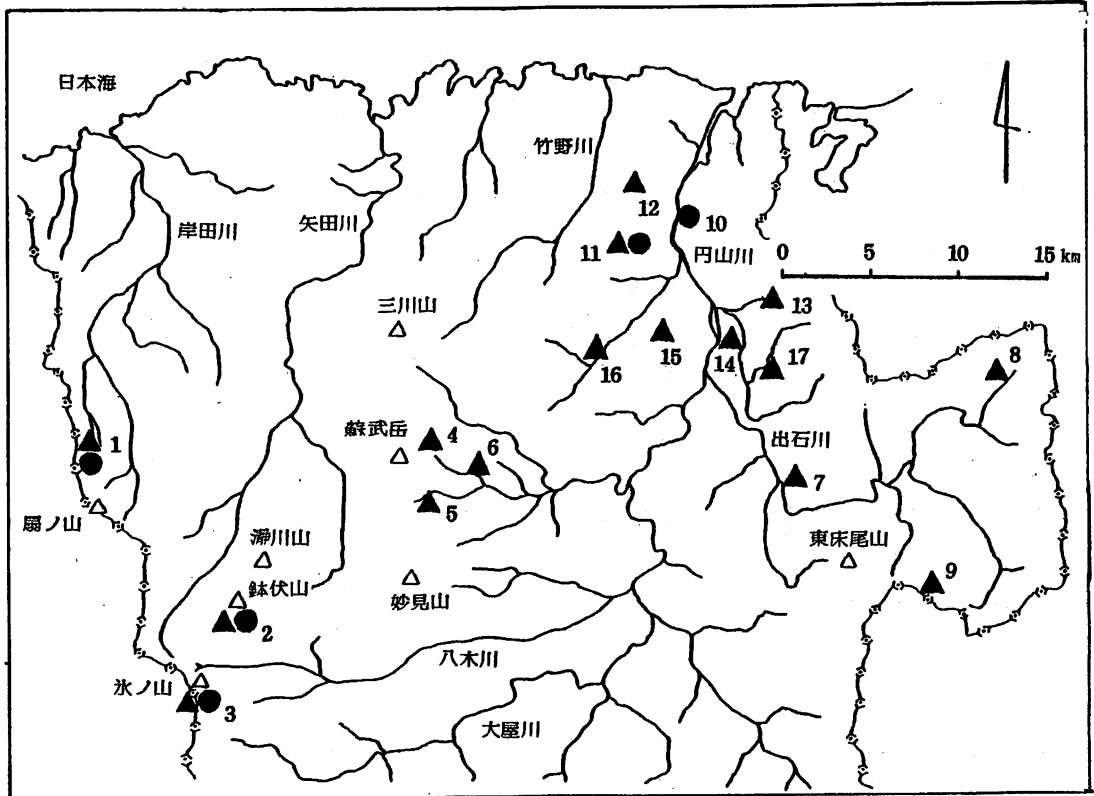


図1 但馬地方における淡水産プラナリアの採集地点。数字は表1中の採集地番号に対応する。▲：ナミウズムシ，●：ミヤマウズムシ。

表1 但馬地方各地における淡水産プラナリア2種の採集記録

採集地	採集年月日	標高	水温	ナミウズムシ	ミヤマウズムシ	生息環境
1 温泉町 氷ノ山	1974 VII 27	900 m	10.0℃	+	+	溪流
2 関宮町 鉢伏高原	1974 VIII 1	900	12.0	+	+	同
3 関宮町 氷ノ山	1974 VIII 2	1200	11.0	—	+	同
4 日高町 蘇武岳	1974 VIII 11	600	—	+	—	同
5 日高町 金山峠	1976 IV 5	500	—	+	—	同
6 日高町 分尾	1975 VI 15	400	—	+	—	小川
7 出石町 谷山川中流	1974 V 22	20	—	++	—	川
8 但東町 虫生	—	100	—	+	—	小川
9 但東町 天谷峠	—	300	—	+	—	溪流
10 豊岡市 玄武洞	1974 XII 1	40	—	—	+	同
11 豊岡市 伊賀谷	1973 XI 18	160	6.0	+	+	同
12 豊岡市 来日岳	1975 V 24	300	—	+	—	泉
13 豊岡市 祥雲寺	1974 VIII 5	20	—	+	—	小川
14 豊岡市 中ノ谷	1974 V 25	40	—	+	—	同
15 豊岡市 戸牧川中流	1974 XI 23	30	7.0	+	—	同
16 豊岡市 奈佐川内町	1973 VIII 7	30	—	+	—	同
17 豊岡市 森尾	1976 VI 12	10	—	+	—	同

1974年春にナミウズムシ (*Dugesia japonica*) でもミヤマウズムシ (*Phagocata vivida*) でもない小形のアラナリアをみつけ、秋に川勝先生に同定していただいたところコガタウズムシ (*Phagocata kawakatsui*) であることがわかった (図2)。その後の調査で、このコガタウズムシは、妙楽寺地域の地下水や浅井戸に広く分布していることがわかった (図4、表2)。全国で最南端の生息地となったわけである。コガタウズムシは、その生息地が妙楽寺周辺に限られていること、湧水池の個体は夏になり池が涸れると姿を消すことなど、いろいろと研究すべき問題が残されている。

1975年3月には友田氏宅の古井戸でコガタウズムシとともに吸着器官をもった個体がみつき、顕微鏡写真 (図3) をとった後、川勝先生へお送りすると、未成熟個体であったため種名を決定できないが、デンドロシーラ科の一新種 (*Dendrocoelidae* sp.) であろうという御返事をいただいた。以後数回調査をしたが、追加標本は採集できなかった。

○おわりに

Iratsume 2号の「アラナリア入門」で、3号に掲載を予告したものがいろいろと事情があってこんなに遅くなってしまった。

淡水産アラナリアについてはまだまだ未知なことが多く、さらにその分布と

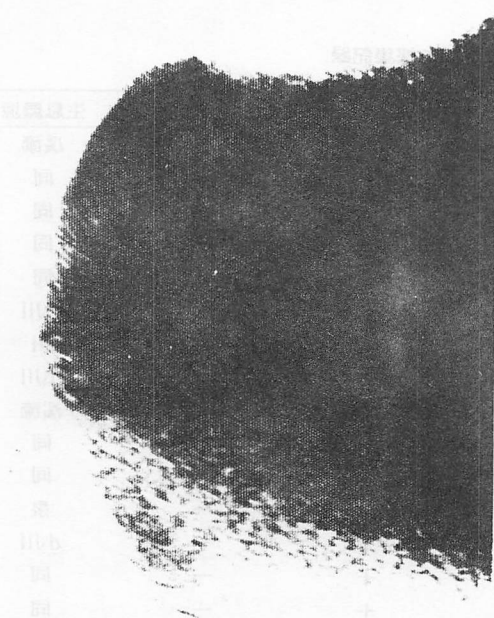


図2. コガタウズムシ.

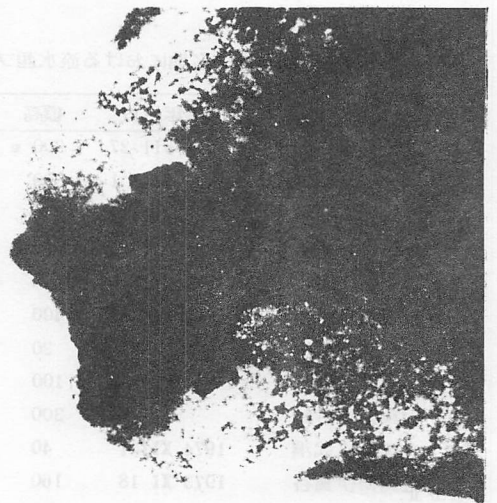


図3 デンドロシーラ科の一種.

但馬地方の淡水産プラナリア

表2 豊岡市妙楽寺周辺における淡水産プラナリア3種の採集記録

採集地	採集年月日	標高	水温	ナミウズムシ	コガタウズムシ	デンドロシーラ科の1種	生息環境
1 妙楽寺の湿地	1974 XI 20	40 m	11.0℃	—	++	—	池
1 同 湿地	1974 XII 3	40	—	—	++	—	同
2 同 テニスコート東	1975 III 28	20	13.0	—	+	—	同
3 同 湿地の北	1974 XII 22	30	11.2	+	+	—	溪流
4 同 福祥寺の南	1975 III 28	30	10.0	—	+	—	同
5 同 福祥寺の東	1975 III 28	20	10.0	+	—	—	同
6 同 京極家墓の北	1974 XII 24	20	9.5	+	+	—	同
6 同 京極家墓の北	1974 XII 24	20	7.5	—	+	—	湧井戸
7 同 友田氏宅	1975 III 10	20	6.9	—	+	+	同
7 同 友田氏宅	1975 III 18	20	—	—	+	—	同

いうと但馬地方は全くの白紙状態といえるだろう。我々が調査したのも豊岡市周辺と代表的な山で、ほんの一部にすぎない。我々は現在但馬を離れているために、誰がこの調査を受け継いでくれる人がいたら大歓迎なのだが、文中にも述べたように、コガタウズムシの生息地がなぜ限定されているのか、ある水系においてどの標高からミヤマウズムシが出現してくるのか、またナミウズムシとミヤマウズムシの混棲の状態やその比率など、調べたいことはたくさんある。もし興味のある人は、筆者まで連絡してほしい。

参考文献

川勝正治・大河原玄沖, 1969, 中国山脈の淡水産プラナリアの生態調査報告, 陸水学雑誌30: 151 - 350.

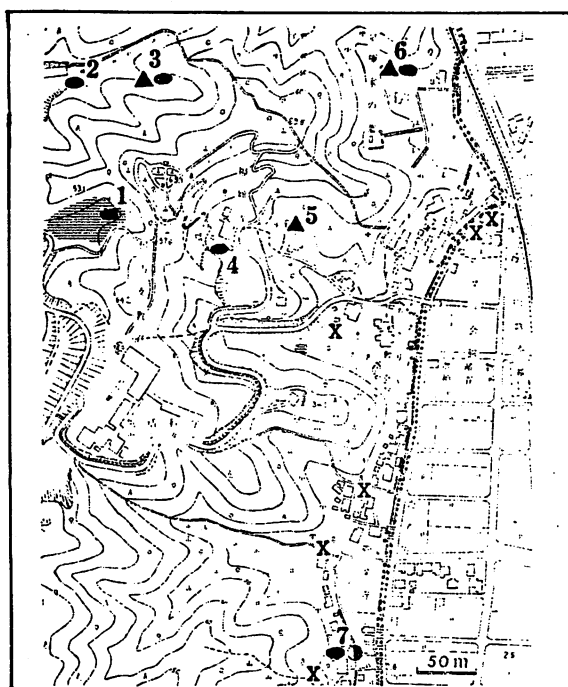


図4 豊岡市妙楽寺周辺における淡水産プラナリアの採集地点。数字は表2中の採集地番号に対応する。

▲：ナミウズムシ，●：コガタウズムシ，⊙：デンドロシーラ科の1種，×：虫が採集されなかった井戸。

(中野ら, 1976 による)

中野 真

- 新村文男. 1975. 玄武洞のフナナリア. 採集と飼育. 37: 120 - 121
- 中野 真. 1978. フナナリア入門. Iratsume. 2: 30 - 32
- 中野 真・向原行雄・山崎喜彦. 1976. 豊岡市周辺の淡水産フナナリア. 採集と飼育. 38(10): 347 - 350.
- 西村 登. 1957. 円山川水系(兵庫県)の水生生物群集I. 日生態会誌. 6: 156 - 159.
- . 1959a. 矢田川水系(兵庫県)の水生生物群集I. 同誌. 9: 184 - 189.
- . 1959b. 氷ノ山溪谷の水生昆虫. 兵庫生物. 3: 339 - 341.